



MON Nara 通信



Numéro 17

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

DÉCEMBRE 2023 12月

これからの催しご案内

第 62 回奈良日仏シネクラブ例会『思い出のマルセイユ』（ジャック・ドゥミ特集④）

- ❖ 日時：2024年2月25日（日）13:30～17:00
 - ❖ 会場：奈良市西部公民館5階視聴覚室（予定）
 - ❖ プログラム：『思い出のマルセイユ』（Trois Places pour le 26, 1988, 103 分）
 - ❖ 監督：ジャック・ドゥミ
 - ❖ 参加費：会員 200 円、一般 300 円
 - ❖ 問い合わせ：Nasai206@gmail.com tel. 070-1731-0230（浅井）
 - ❖ 予約不要
- ❖ 映画はイヴ・モンタンがミュージカル公演に出演するために故郷のマルセイユ駅に到着するところから始まる。冒頭、駅の階段でモンタンが歌って踊る群舞が魅力的。初老のモンタンには、長年歌手・俳優としてキャリアを積んできたスターにしか出せない枯れた味わいと優雅さがある。マルセイユの公演では、自身の歩んできた人生を歌と踊りで振りかえる。その舞台裏では、かつての恋人と再会し、自分には娘がいたことを知らされる。ドゥミの作品におなじみの男女の出会い・別れ・すれ違い・再会の劇が、実人生と芝居が交錯しながらくり広げられる。様々な偶然に翻弄されほろ苦さを味わいながらも生きていく人物たち。モンタンはマルセイユでの公演を終えると次の場所での公演へと旅立つ。人生は旅であり、旅は人生そのものでもある。本作品はドゥミの遺作となった。



美術クラブ例会「モネー連作の情景」鑑賞会のご案内

来年、大阪中之島美術館で開催される美術展「モネー連作の情景」の鑑賞会を開催いたします。いつものように鑑賞のツボを事前解説の後、各自自由にご鑑賞いただき、そのあと感想・意見交換会を実施します。日程は、3月14日（木）を予定しておりますが、時間、会費など詳細については、Mon Nara2月号でお知らせします。

❖ 1891年パリのデュラン＝リュエル画廊での「積みわら」連作 15 点の展示は、美術史において「連作」形式が世に認められるきっかけになりました。印象派の枠をこえ抽象絵画にも影響を与えることとなります。今回の鑑賞のポイントは、モネがどのようにして連作に取り組むに至ったかを理解できるような展示への着目です。モネは普仏戦争を逃れてロンドンに滞在した後、オランダのザーンダムに滞在して「水辺」の風景画を何点も描いています。日本の浮世絵との出会いもこのオランダ滞在時といわれています。印象派の仲間たちとは 20 代の頃に出会い互いに切磋琢磨し、当時確立されていたジャンル「歴史画」「神話画」とは異なる作風の画を制作するようになっていました。とはいえフランス美術史には、1年12カ月を描いた「ベリー公のいとも豪華なる時祷書」（15世紀）やプッサンの連作『四季』（1660-1664）さらには同時代のミレーの連作『四季』等、時間と共に変化する人間たちを描いた作品の伝統があることも、モネはしっかり認識していたようです。「橋」「溪谷」「断崖」「大聖堂」「ポプラ」そして「睡蓮」へと至る数々の連作の魅力を、彼の人生の歩みとともに、見つめ直してみませんか？（ナビゲーター：浅井直子）



「モネー連作の情景」展 図録より

2024 年度総会のお知らせ

奈良日仏協会の 2024 年度総会を下記のとおり開催する予定です。日ごろの協会活動へのご感想やご希望を話し合う良い機会ですので、ぜひご参加ください。懇親会は、今回は着席形式で、ミニコンサート付き飲食パーティのかたちで実施すべく、現在企画中です。詳しくは、1 月下旬にお届けする案内状をご覧ください。

- ❖ 日時: 2024 年 2 月 11 日 (祝・日) 14:40~17:15
- ❖ 会場: 野菜ダイニング「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F)



活動記録

- ★10 月 22 日 (日): ガイドクラブ「会津八一の歌碑をたずねて」 講師: 柏木隆雄
 - ★11 月 23 日 (祝・木): 秋の教養講座「牛を描き続けて 50 年一生きる喜びを世界へ伝えたい」 講師: 赤木睦代
- いずれも詳細報告は、来年の Mon Nara 2 月号をご覧ください。

《2023 年度第 5 回理事会報告》…事務局

★日時: 2023 年 11 月 16 日 (木) 15:00~16:15。 ★場所: 野菜ダイニング「菜宴」。
 ★出席者: 三野、浅井、中辻、高松、喜多、菌田、杉谷。 ★議題 1. 2023 年度会費納入額・会員数。 2. 前回理事会 (9/21) 後の活動: ガイドクラブ「会津八一の歌碑をたずねて」(10/22)、第 61 回シネクラブ「『ロシュフォールの恋人たち』ジャック・ドゥミ特集③」(10/29)。 3. 今後の行事: 秋の教養講座「牛を描き続けて 50 年」(11/23)、2024 年度総会 (2/11)、第 62 回シネクラブ「思い出のマルセイユ」(2/25)、美術クラブ鑑賞会「モノ展」(3/14)、4. 30 周年記念行事検討。 5. Mon Nara、Mon Nara 通信。 6. その他: 2023 年決算打合せ。「ニュー・ブランシュ KYOTO2023 カクテル・パーティ」(9/30) 報告。 7. 次回理事会: 2024 年 1 月 18 日 (木) 15:00~16:30 「菜宴」。



後記 ☆今年もあっという間に 12 月になってしまいました。Mon Nara 通信 12 月号をお届けします。★11 月 23 日に実施した「秋の教養講座」について、フランス語の先生に説明しようとして、「牛の絵を描いて 50 年」の牛を言うのに、bœuf を使ったら、vache ではないかと訂正されました。辞書で調べてみると、bœuf は広義で牛、狭義では去勢された牛を言い、vache は雌牛と出ていました。他に taureau という去勢されていない雄牛もあり、こちらの方が赤木さんの牛にはふさわしいような気がしました。同じ牛でも、国が変われば言葉もいろいろありますし、牛自体も、ヨーロッパの平野でのんびりと草を食んでいる牛と、昔よく目にした日本の田舎の農耕牛では、ずいぶん印象が違います。☆このところ、翻訳に関する本をあれこれ読んでいますが、いくつかに通ずる指摘として、語学に精通していることはもちろん大切だが、その国の自然、風習、国民性などを理解していなければならないというのがありました。翻訳ではありませんが誤読の例として、芭蕉の句「水取や籠の僧の杵のおと」を、「儀式の際に廊下を通るこつこつした音の寒そうな感じが表われている」と露伴が評釈している例が挙げられ、実際の賑やかな杵音を知っている人が聞くとおかしな解釈になってしまっていると指摘していました。露伴でも間違っ誤読ですから、フランス語の本を読むのに毎日奮闘している私としては、語学が覚束ない上に、フランスの事情もよく知らないとなれば、とんでもない誤読をしでかしているに違いありません。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 2 月号は 1 月 31 日が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1) 内容がフランスに関わるもの、2) 本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2023 年 12 月 numéro 17

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者: 三野博司